

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401748		
法人名	有限会社 ベストケアサービス		
事業所名	グループホーム香雪園		
所在地	〒042-0955 函館市高丘町4 1番1 2号 (電話) 0138-36-5500		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月12日	評価確定日	平成22年4月19日

【情報提供票より】(平成22年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算	13.4人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円	その他の経費(月額)	27,000~36,000円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	50円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8歳	最低	62歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会医療法人函館渡辺病院・たけだクリニック・田中歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、函館市東部の高台に位置しており、事業所名の由来となっている広大な庭園である香雪園が近くにあり、利用者は、四季の移り変わりを肌で感じながら、憩いの場として利用している。町内には、高齢者福祉施設や幼稚園、小学校と大学があり、高専や中学校も近くにある。運営者は、町内会とこれらの施設や大型スーパーと連携を取り、高丘町地域防災ネットワーク協議会を4月に設立の予定である。事業所は決まりを作らず個別支援に力を入れているのが特徴である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である運営推進会議の議事録と家族への個別報告の対応は、全体会議の中で話し合い、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組むことで、日々のケアの見直しや反省点を発見しながら、全体会議で話し合い自己評価を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、町内会会館を会場にし、2ヶ月ごとに開催している。会議を通じて町内会との関係が良好なものとなり、会員が自主的に、事業所周辺の草刈や、話し相手に頻りに訪れている。また、会議では、家族会からの要望や意見もあり、評価結果の公表と改善に向けての取り組みなどを話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や運営推進会議、家族会の時に不安や意見を聞き、出された件についてミーティングなどで話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の行事には、積極的に参加している。事業所の夏祭りなどに地域住民が訪れたり、近くの小学生による手づくりの曆には、利用者へのメッセージが添えられているなど、地域との交流が深まっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は「愛と笑顔」とし、運営方針の中で地域との交流を取り入れるなど、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングの時に理念に触れ、職員間で確認し合い、具体的ケアについて意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事には、積極的に参加している。近隣の住民が、自主的に事業所周辺の草刈りや、話し相手のボランティアとして頻りに訪問している。また、実習生の受け入れや小学生が手作りの曆にメッセージを添えて事業所に届けるなど、地域との交流が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義やねらいについて全職員が理解し、自己評価に取り組み、全体会議で改善に向けて検討し、実践につなげるための努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町内の同一法人のグループホームと合同で2ヶ月ごとに開催している。会議では、事業所の報告や町内会からの情報、家族会との意見交換、評価結果の公表を行い、意見を聞いている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保健所と運営上の相談や情報交換などで常に連携を取り、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や毎月の便りなどで、日々の暮らしの様子を伝え、健康に変化が見られた時には、電話で連絡し相談している。金銭管理については、4ヶ月ごとに報告している。	○	金銭出納の明細について、家族へ報告する期間を短縮することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望、苦情が出された時は、ミーティングや職員会議で話し合い、改善に取り組み、運営推進会議や家族会で報告し評価を受けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の福利厚生の実を図り、離職を抑える努力をしている。また、職員を担当制にして、馴染みの職員によるケアを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は交代で外部研修に参加している。内部研修については、事業所側の希望で町内会の協力を得ながら研修を行うこともある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のBブロックの各事業所間を相互訪問して勉強会を開催し、情報交換や事例体験、意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	雰囲気慣れるまでは家族に相談したり、協力を得るなど工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、家事仕事や調理、レクリエーションなどを一緒に行い、教えてもらう場面を設けたり工夫をして、支えあう関係づくりに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを心がけながら、本人の意向を把握し、本人のペースに合わせた支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式によるケアプランを導入し、業務日誌の記録を参考に、家族の要望を聞き、ケアプラン会議の中で、課題となることをスタッフで話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月ごとの見直しとしているが、状態に変化が見られた時には、家族と話し合い、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	帰宅送迎支援や家族の要望に応じての受診支援、本人の希望で教会への送迎支援など、柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診となっている。協力医の訪問診療や訪問看護の看護師による健康管理の記録を全職員が共有している。夜間対応も整備しており、適切な医療を受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に終末期や看取りについて、事業所としての指針を家族に説明し、同意書に記名捺印を得ている。全職員が方針を共有しているが、かかりつけ医と話し合いにまでは至っていない。	○	病状の悪化に伴う緊急時の対応について、協力医療機関と連携体制は整えているが、今後、かかりつけ医を含めた方針の共有が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約時に個人情報使用同意書に家族の確認印を得ている。言葉遣いや声がけの対応について、職員会議の中で話し合い、日常的に気を付けている。また、個人の記録は一定の場所に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとを作らず個々の支援を大切にケアをしている。利用者は、自分のペースで過ごしており、職員は臨機応変に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握して献立を作成している。利用者の希望により、好みの出前を取り入れることもあるなど、食事を楽しむ工夫をしている。職員は、できることを見極めながら、食事の準備や後片付けを利用者と一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を目安に支援している。入浴を拒否する傾向がある利用者には、職員を変えてタイミングを図ったり、みかんの皮を浴槽に入れるなど、楽しく入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	在宅時に使用していた松前漬用の昆布を家族が持ち込み、利用者が作業をしている。また、家庭菜園の野菜作りや近隣住民と一緒に事業所周辺の草取りを行ったり、漬物づくりに挑戦するなど、一人ひとりの得意とすることを把握して支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夕方にクリスマスファンタジーを見学に行き、夕食したり、近くの香雪園の散歩は日常的に行うなど、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中の玄関には施錠をしていない。事業所は自由な暮らしを支援をしているが、夜間は防犯のために鍵をかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導で夜間想定を含んだ訓練をしている。4月に高丘町地域防災ネットワーク協議会を設立し、地域と連携して防災、災害に取り組む予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態により、かかりつけ医の指導のもと水分を摂取し記録をとり、職員間で情報を共有している。食事量も記録してあるが、栄養のバランスについては指導を受けたことはない。	○	栄養のバランスやカロリーについて、専門家のチェックや指導を受けることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけに季節感を採り入れており、家具の配置も家庭的な雰囲気となるよう配慮している。不快な臭いや音もなく採光はカーテンで調節するなど、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族と相談して冷蔵庫や日用品、趣味で作成したタンスや鏡台、引き出し付きの小物入れなどを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		

※  は、重点項目。